



生徒指導部から

＝未来の花を咲かせるために＝

2025年7月15日

不器用は強い。 不器用だからこそ。

小野二郎さんという寿司職人がいる。 「寿司の神様」といわれる。ミシュランガイドでアジア初の最高の三つ星評価を得た一流の寿司職人である。そこまでの技術をもつ人が、自分のことを「手先が不器用」だと評している。

小野さんはこう語る。

「人の何倍も練習して、ここまでできるようになったんです。

不器用だから人よりも余分に考える。

みんなが1を考えると、3も4も考えるわけです。

だから、かえって考えが深くなっていくのではないかと思いますね。

『おれは不器用でダメだ』と思ってしまったらおわりですけど、

『不器用だから、もうちょっと考えてみよう』と頑張れば、

かえっていい結果が出てくるのではないのでしょうか。」と。



森下洋子さんというバレリーナ。 「東洋の真珠」と謳われた。日本人で初めて国際的に活躍したプリマバレリーナと称される人である。3歳の頃、体が弱くて、医者から「何か運動をさせなさい」とバレエを始めた。ちよど家の前の幼稚園でバレエ教室が開かれていてバレエと出会った。

森下さんも次のような言葉を述べている。

「私にとってよかったことは、自分が不器用だったことです。

器用な人が一回で済むところを何回もやらなきゃできない。」と。

小野さんにしても、森下さんにしても、

「自分は不器用だ、それがプラスにはたらいた」と考えているのである。

よし、今はできないけど自分も・・・と、勇気が出てくる二人の言葉である。

目の前のこと（苦手だと思うこと）を簡単にあきらめない。

できるようになるまでやり続けることが、一流になる、幸せになる唯一の道なのかも。

「ものづくり」を志すあなたたちが頑張る勇気をもらえるお話。

夏休み目前。といっても3年生の皆さんは、夏休みも毎日登校して、履歴書を書いたり、面接練習をしたり、試験対策をしたり、と忙しい日が続きます。1、2年生は、部活動や資格取得、アルバイトなど自分を磨くための時間の使い方を選ぶ貴重な期間です。いずれにしても順風満帆という訳にはいかないでしょう。困難なことにぶつかったり、苦しいことにつまづいたり、そんなことを乗り越えてこそ自分の未来のためになるのだと思います。小野さんや森下さんの言葉を思い出しながら、「苦しいからこそ、頑張らなきゃ。」と思える人でいてください。うまくいかないから「めんどくさい。」と言うことは、自分の将来を切り拓くことを「めんどくさい。」と言ってるようなものですから。

若さ溢れるあなたたちは、今まさに、自分の可能性を広げようとしているのです。

夏季休業中の生徒心得（あんしんメールで送付）を参考に有意義な44日間を過ごしてください。

去年までのあなたは、どんな人でしたか？

去年までのあなたは、何をしていましたか？

きっと、他人は、あなたの過去を見て、あなたを判断しようとしています。

けれど、あなたまで、そういう見方であなたを見てはいけない。 **Change**

あなたは新しい。

あなた自身を過去から引き離せば、きっと、感じ方も変えられる。

うらやましく、憎らしいとばかり見えていたものが、

すばらしいと思えるかもしれない。



講演家 マイケル・J・ロオジエ